



写真提供／BRAC

金融機能を活用して 持続可能な 社会に貢献する

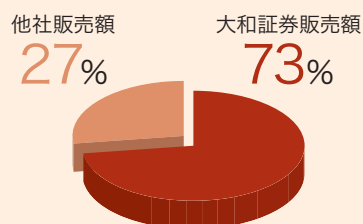
気候変動に代表される環境問題、また貧富の差の拡大など、
私たちが暮らす社会は今、持続可能性を脅かすさまざまな問題に直面しています。
そのなかで、企業に対しても、ただ市場の論理に従い利益のみを追求するのではなく、
社会全体の利益を目指して行動することが、強く求められるようになりました。
金融はこうした社会変革の動きを側面からサポートすることができます。
そこで大和証券グループは、インパクト・インベストメント※商品
—その社会的意義が投資家にも明らかな金融商品—の開発・販売などを通して、
さまざまな社会的課題の解決につながるお金の流れを促す努力をしています。

※インパクト・インベストメント…貧困や環境など社会的課題の解決を図ると同時に、経済的な利益も生み出す投資のこと

大和証券グループが販売した
インパクト・インベストメント型債券
(2008年3月～2010年4月)

ワクチン債
ワールドクルーボンド
マイクロファイナンス・ボンド
グリーン世銀債
ウォーター・ボンド

インパクト・インベストメント型債券の
国内累計販売額と大和証券シェア



総額 約 **2,600** 億円(2008年3月～)
大和証券商品企画部調べ
*個人向け債のみ(2010年4月末現在)

2009年 外債※1における
インパクト・インベストメントの割合

大和証券グループ※2 11%

参考情報:日本市場全体※3 3%

※1 国内売出外債
※2 大和証券キャピタル・マーケットヨーロッパリミテッド
主幹事・大和証券販売の国内売出外債に占める
インパクト・インベストメントの割合
※3 株式会社キャピタル・アイのデータをもとに
大和証券グループで試算

マイクロファイナンス・ボンド 貧困問題解決にグループをあげて挑む

現代社会が抱える、大きな課題のひとつである貧困問題。

我々の本業である証券ビジネスを通じて、

その解決につながるお金の流れをつくり出すことはできないか――。

そんな思いが生み出した新たな試みが、「マイクロファイナンス・ボンド」です。

債券投資を通じて 貧困問題の解決に寄与する

世界銀行の調査※によれば、世界人口の4人に1人、約14億人が、1日1.25ドル未満の生活を余儀なくされているといわれています。

こうした状況を、証券ビジネスを通じて変えていきたいとの思いから、2009年11月に引受・販売を行なったのが、債券投資を通じて貧困問題の解決に寄与するという新しい形の商品「マイクロファイナンス・ボンド」です。



写真提供／BRAC

マイクロファイナンスとは、主に開発途上国の貧困層を対象とした小規模金融サービスのことです。貧しいがゆえにこれまで金融サービスの対象とならなかった人々に、小規模の無担保融資(＝マイクロクレジット)をはじめとする基本的な金融サービスを提供し、貧困からの脱却と経済的自立を支援することを目的としています。

「マイクロファイナンス・ボンド」は、債券投資を通じて、

このマイクロファイナンスへの資金を提供しようとする試みです。世界銀行グループである国際機関「国際金融公社(IFC)」が債券の発行を、大和証券グループが引受・販売を行い、その購入に投じられた資金が、IFCのマイクロファイナンス事業に活用されるという仕組みです。

グループ横断の連携で 商品化が実現

この商品を起案したのは、大和証券 商品企画部 企画課次長の山本聡。米国留学時代、マイクロファイナンスの資金調達をオンラインで展開するベンチャー企業の存在を知ったことが、そのきっかけでした。

「マイクロファイナンスのことはそれまでも知っていたけれど、証券ビジネスとは関係ないという認識でした。でも、こうして事業化に挑んでいる企業があるなら、当社にも可能性があるはずだと感じたのです」

「マイクロファイナンスに資金提供ができる債券を」。帰国後、山本の提案は部内でも高い評価を得ました。「社会性の高い投資への関心が高まる今、この商品は必ず注目を集める」。そう判断した同商品企画部長 花岡幸子の後押しで、商品化に向けたプロジェクトが立ち上がったのです。

実現に向けては、グローバルに投資銀行業務を展開するグループ会社、大和証券キャピタル・マーケットと連携しました。担当者のひとり、キャピタルマーケット部 海外DCM課次長の山室潤は、債券の発行体を決定するため、海外駐在社員の協力も得てリサーチを進め、すでにマイクロファイナンスへの融資に実績があったIFCへのアプローチを開始しました。しかし、先方からは「そんな債券は聞い

※世界銀行マーティン・ラバリオン、シャオファ・チェン執筆「途上国の貧困人口は想定以上だったが、貧困削減自体は進展」より2005年の推計



写真右より：

大和証券 商品企画部 企画課次長 山本聡、同商品企画部長 花岡幸子、
大和証券グループ本社 CSR室 上席次長 岩井亨、
大和証券キャピタル・マーケットズ キャピタルマーケット部 海外DCM課 中澤佳寛、同 次長 山室潤
(部署名および役職名は2010年3月末時点)

たことがない。難しいのでは」との言葉が返ってくるなど、交渉は難航を極めたといいます。

「それでも、粘り強く折衝を重ねて合意にこぎ着けられたのは、『なんとしても実現させたい』という熱意が先方に伝わったからだと思います」山室はそう語ります。

社会への貢献に対する 高いニーズに応える商品

そして2009年9月、ついに債券の発行が決定。「投資を通じて貧困問題解決に寄与できる」という日本初の画期的な商品の登場は、業界にも大きなインパクトを与えました。

もちろんそれは、日々現場で投資家と接する営業担当の社員にとっても、大きなニュースでした。大和証券札幌支店 資産コンサルタント第4課上席課長代理の萩原淳は自らマイクロファイナンスに関する書籍を読んで知識を広げ、お客様へ提案に回りました。「社会への貢献につながる商品へのニーズは高いと感じていたし、それに答えられる商品だと思いましたね。説明の際にもっとも力を入れたの

は『投資したお金がどう使われるか』について。寄付ではなく債券購入ですから、きちんと金利も支払われます。そのことが、『自分の払ったお金は、ちゃんとしたところに投資されるんだな』という信頼感につながったと思います。ご購入いただいたお客様は購入後も、発行体による活動報告レポート等をご覧に



大和証券 札幌支店
資産コンサルタント第4課
上席課長代理
萩原 淳
(部署名および役職名は2010年3月末時点)

なり、『資金がどう使われているか』について高い関心を持っていらっしゃるようです」

以前から、こうした社会性の高い商品の提案の際には、「金融機能を活用して持続可能な社会に貢献する」という当社のCSR重要課題についても言及してきたという萩原は、「自分の仕事为社会への貢献につながる事がやはり嬉しいですね」と話します。

「また、『外国債券は買ったことがなかったけれど、こういう商品なら買ってみようかな』というように、社会に貢献できることがお客様の層を広げているという実感もあります。今後、こうした社会的視点を持って商品を購入されるお客様はさらに増えていくのではないのでしょうか」

金融という手段を使って、社会が直面するさまざまな問題の解決にいかに関与していけるか。その課題に挑戦し続けていくことこそが、私たちに課せられた大きな社会的使命でもあるのです。

ステークホルダーの声



世界への貢献とは、 経済的欲求を超えた、 豊かな社会の姿の提示

シンクタンク・ソフィアバンク副代表
社会起業家フォーラム副代表
法政大学ビジネススクール客員教授

藤沢 久美氏

海外の貧困の現場に行くたびに、いかに日本人が豊かさを得るために努力を積み重ねてきたかを痛感します。そして、その日本人の努力に、憧れを持って敬意を表してくださる方にも多く出会います。そして、経済的にも物質的にも豊かになった日本の今後に興味を持つ人は少なくありません。欠乏感からではなく、物質的に満たされてなお、未来へ向って歩む社会をどのように日本が実現するか、注目しています。企業と個人がひとつの思いを重ね、個人が世界に直接貢献できる機会を提供する債券発行は、世界が次に向うべき企業と個人の関係そのものだと思います。